



皇朝從來ノ曆法ハ月ノ運行ヲ本トセルカ故ニ
朔望ヲ知ルニハ便ナレドモ周年間ノ節氣月割
等ニハ甚不便ニシテ往々節氣半月モ前後スル
コトアルカ爲ニ己ムヲ得ズ閏月ヲ設クルノ煩
アリ且又此度津田真一郎ヨリ年號ヲ廢シ元ヲ
立テタモフベキヲ建議セシハ至當ノ説ト云フ
ベシ故ニ元ヲ立テ元ノ如ク曆法ヲ改革シタモ
フトキハ至便至明萬代不易ノ美曆トナリ方今
外國交際ノ時ニ當リテ宇宙未嘗有連綿長久ノ
皇統ヲ天下萬國ニ揭示シ航海ニ大利益ヲ起

シ數年後ノ航海曆モ容易ニ作ルベク數十年ノ
事ヲ人ト約スルモ年月日ヲ指定スベク數百年
後ノ日月蝕モ今ヨリ舉示スベシ不便ノ閏月ナ
ク月割ノ日數ヲ一度知ルトキハ毎年大小ヲ覺
ユルノ煩ナシ且ツ月割大抵節氣ト符合スルヲ
以テ農業ニ大益アリ譬ヘバ大抵清明ハ毎年三
月一日トナリ二百十日ハ七月二十六日トナル
か如シ併此曆ニテ八月ノ盈虚八月割ト符合セ
サレドモ畢竟月ノ主用ハ天象ヲ測ルト潮ノ満
落ヲ知ルニアリテ朔望ヲ曆中ニ記スレバ足レ

リ又此曆ヲ用フルトキハ月給等ノ如キ月勘定
ノ事件ニ故障アルノ説ヲ生スルコトアルベシ
然レトモ是等ノ如キハ其勘定ニ然ルベキ割合
ヲ立ルトキハ毫モ改曆ノ事ニ關係セズシテ可
ナリ且ツ大レ時ハ人命ノ尺度ニシテ孜孜汲々
ハ延命ノ策因循姑息ハ縮命ノ具ト云フベク人
ヲシテ無益ニ時ヲ費サシムルハ人命ノ一分ヲ
断ツニ等シ故ニ世人ヲシテ交際ノ信ヲ立テシ
ムルガ爲ニ
皇朝既ニ昼夜十二時ノ時割先ニ百刻十二支等

ノ刻割アリ然レトモ舶来ノ袂時計ハ携帶ノ便
利アルノミナラス刻割ノ細密ニシテ交際ニ裨
益アルヲ以テ近來世人一般ニ之ヲ携ヘ其刻割
ヲ用フ實ニ信ヲ立ツルニ甚有益ノ具ナリ其上
既ニ公議所出仕刻限等ノ如キハ公事ニモ之ヲ
用ヒタモフ上ハ速ニ御改革アリテ普ク天下ニ
布告シ都府ノ市中ニ辰鐘ヲ設ケ下民ニ至ルマ
デ此刻割ヲ用ヒシメタマハハ交際ニ大ナル裨
益アルベシ願クハ方今
御一新ノ折柄ヲ幸ニ年号曆法時割共断然 御

改革アラバ實ニ萬代ノ大幸福タルベシ是レ懇
願ニ堪ヘザル所ナリ故ニ管見多罪ヲ願ミス試
ニ年月ヲ配當シ今年ノ畧曆ヲ尤ニ載セ愚存奉
申上候恐惶謹識

己六月

京都兵學所御用掛

市川齊宮

曆法

周年ハ西洋ノ時刻ニテ三百六十五日五時四十
 九分弱ナレドモ三百六十五日ヲ以テ平年ノ日
 此ヲ以テ剰餘ノ五時四十九分ヲ積ミテ四個年
 ニ至ルトキハ二十三時十六分ノ剰餘トナリテ
 大略一日ノ差ヲ生ス故ニ四個年毎ニ一日ヲ増
 シテ三百六十六日ヲ閏年ノ日数トス然ルニ此
 ノ如ク四個年毎ニ閏年ヲ設クルトキハ百年ノ
 間ニ二十五閏トナル其一個毎ニ四十四分ノ不
 足_{カニ}ニ_加ハ_三時_{十六}分_トナル_{十四}ヲ生スルヲ以テ此

不足ヲ積ミテ二十五閏ニ至ルトキハ十八時二
 十分ノ不足トナル故ニ百年目ノ閏年ヲ平年ト
 シテ其不足ヲ補フ然レドモ今十八時二十分ノ
 不足ヲ一日ニテ補フカ故ニ又五時四十分ノ剰
 餘ヲ生シ之ヲ四度積ムトキハ七十二時四十分
 ノ剰餘トナル故ニ四百年目ニハ又一日ヲ増シ
 閏年トナシテ其差ヲ補フ然レドモ又些少ノ差
 ヲ生ス但シ此差ハ四千年ニ至リテ漸ク一日餘
 トナルヲ以テ今之ヲ略ス且又津田真一郎ノ議
 ニ從ヒ

神武天皇 御即位ノ年ヲ元トスルトキハ明治
元年戊辰ハ二千五百二十八年トナリ明治二年
己巳ハ二千五百二十九年トナルベシ之ヲ上ノ
曆法ニ合スルトキハ閏年平年ノ順左ノ如クナ
ルベシ

但シ平年ノ日数ハ三百六十五日ニシテ
閏年ノ日数ハ十二月ノ末ニ一日ヲ加ヘ
テ三百六十六日トス
又子年辰年申年ヲ必閏年トス 但シ二千
三十年 三十四百年ノ
外百年目ハ例外ナリ

閏年	二千五百二十八 ^{辰年} 年	二千五百三十二 ^{申年} 年	二千五百三十六 ^{子年} 年
平年	二千五百二十九 ^{巳年} 年	二千五百三十三 ^{酉年} 年	二千五百三十七 ^{丑年} 年
平年	二千五百三十 ^{午年} 年	二千五百三十四 ^{戌年} 年	二千五百三十八 ^{卯年} 年
平年	二千五百三十一 ^{未年} 年	二千五百三十五 ^{亥年} 年	二千五百三十九 ^{辰年} 年

又百年目ノ順ハ左ノ如シ

閏年	二千六百 ^{辰年} 年	三千 ^{申年} 年	三千四百 ^{子年} 年
平年	二千七百 ^{巳年} 年	三千百 ^{酉年} 年	三千五百 ^{丑年} 年
平年	二千八百 ^{午年} 年	三千二百 ^{戌年} 年	三千六百 ^{卯年} 年
平年	二千九百 ^{未年} 年	三千三百 ^{亥年} 年	三千七百 ^{辰年} 年

月割

[illegible]

右ハ都テ略例ナリ曆算ニ四十九分ヲ用ヒシモ
四十八分四十七秒半ノ大略ニシテ十二秒半ノ
差アリ故ニ其算ニテハ四千年目ニ一日ノ差ヲ
生スルニ至ラズ且ツ其外誤算不適當ノ事件アリ
ルベシ然レドモ此説若シ公議ヲ得テ御採用
ニセナルベキトキハ更ニ識者ヲシテ重校密測
セシメタモフベキハ素ヨリ論ヲ俟タザル所ナ
ルベシ